

J A 御 中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局: JA福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

〔 緊 急 〕

営農情報 16

台風17号接近に伴う技術対策について

1 台風17号接近に伴う技術対策

気象庁によると、台風17号が勢力を強め北上し、9月22日～23日にかけて九州北部に最接近する恐れがありますので、下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

留意事項

ほ場・農業用施設の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないで下さい。また、大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近づかず、人命を最優先に事故防止の徹底に努めてください。

1 水 稻

- 収穫期となっているほ場は、可能であれば台風襲来前に収穫を行う。
台風通過後に収穫する場合は、落水管理とし、台風通過後速やかに収穫する。
- 6月下旬移植の「元気つくし」や中・晩生品種の「ヒノヒカリ」、「実りつくし」、「ヒヨクモチ」等で、収穫まで日数を要するほ場は、倒伏及び稲体表面からの異常蒸散による「急性萎凋症状」の発生を防ぐため、深水管理を行う。
台風通過後の数日間は、ほ場の水を切らさない程度に、浅水管理とする。
- 成熟期が近いほ場で倒伏した場合は、台風通過後早急に落水し、穂発芽を防止する。
- 倒伏が発生した場合、高水分籾が荷受けされるため、共乾施設は乾燥時間がかかることを想定し荷受けを行う。
- 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。十分な排水ができない状況でも、葉の先端が水面から出るよう最大限の努力をする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを行う。
- 本年は、トイビロウンカの発生量が非常に多いため、台風通過後にほ場内の発生量を確認し、要防除水準に達している場合は早急に防除する。
坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、減収の拡大を防ぐ。
- 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を行う。

2 大 豆

- 台風接近前に、雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
 - 台風通過後、大雨ではほ場内に停滞水がある場合は、再度、畦溝や排水溝の点検整備を行う。
- 以上